

半 期 報 告 書

(第120期中) 自 2020年4月1日
至 2020年9月30日

太平化学製品株式会社

半 期 報 告 書

- 1 本書は半期報告書を金融商品取引法第27条の30の2に規定する開示用電子情報処理組織(EDINET)を使用し提出したデータに目次及び頁を付して出力・印刷したものであります。
- 2 本書には、上記の方法により提出した半期報告書に添付された中間監査報告書を末尾に綴じ込んでおります。

目 次

頁

第120期中 半期報告書

【表紙】	1
第一部 【企業情報】	2
第1 【企業の概況】	2
1 【主要な経営指標等の推移】	2
2 【事業の内容】	4
3 【関係会社の状況】	4
4 【従業員の状況】	4
第2 【事業の状況】	5
1 【経営方針、経営環境及び対処すべき課題等】	5
2 【事業等のリスク】	5
3 【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】	6
4 【経営上の重要な契約等】	8
5 【研究開発活動】	8
第3 【設備の状況】	9
1 【主要な設備の状況】	9
2 【設備の新設、除却等の計画】	9
第4 【提出会社の状況】	10
1 【株式等の状況】	10
2 【役員の状況】	12
第5 【経理の状況】	13
1 【中間連結財務諸表等】	14
2 【中間財務諸表等】	33
第6 【提出会社の参考情報】	42
第二部 【提出会社の保証会社等の情報】	43

中間監査報告書

【表紙】

【提出書類】 半期報告書

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 2020年12月28日

【中間会計期間】 第120期中(自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)

【会社名】 太平化学製品株式会社

【英訳名】 TAIHEI CHEMICALS LIMITED.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 村中 正和

【本店の所在の場所】 埼玉県川口市領家四丁目5番19号

【電話番号】 (048)222局1122番(代表)

【事務連絡者氏名】 経営管理部長 山時 慎一

【最寄りの連絡場所】 埼玉県川口市領家四丁目5番19号

【電話番号】 (048)222局1122番(代表)

【事務連絡者氏名】 経営管理部長 山時 慎一

【縦覧に供する場所】 該当事項はありません。

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

(1) 連結経営指標等

回次	第118期中	第119期中	第120期中	第118期	第119期
会計期間	自 2018年 4月1日 至 2018年 9月30日	自 2019年 4月1日 至 2019年 9月30日	自 2020年 4月1日 至 2020年 9月30日	自 2018年 4月1日 至 2019年 3月31日	自 2019年 4月1日 至 2020年 3月31日
売上高 (千円)	2,426,587	2,371,387	1,850,266	4,923,634	4,678,187
経常利益又は経常損失 (△) (千円)	35,075	△44,468	△97,743	39,119	△129,039
親会社株主に帰属する 中間(当期)純利益又は 親会社株主に帰属する 中間(当期)純損失 (△) (千円)	14,723	△70,442	△127,872	18,925	△135,245
中間包括利益又は 包括利益 (千円)	46,350	△67,275	△130,222	48,730	△142,466
純資産額 (千円)	2,384,792	2,319,816	2,114,343	2,387,142	2,244,585
総資産額 (千円)	7,416,188	7,165,596	6,721,667	7,434,355	7,052,926
1株当たり純資産額 (円)	210.58	204.88	186.76	210.80	198.25
1株当たり中間(当期)純 利益金額又は中間(当期) 純損失金額 (△) (円)	1.30	△6.22	△11.29	1.67	△11.94
潜在株式調整後 1株当たり中間(当期) 純利益金額 (円)	—	—	—	—	—
自己資本比率 (%)	32.2	32.4	31.5	32.1	31.8
営業活動による キャッシュ・フロー (千円)	189,262	147,506	△74,752	111,893	100,291
投資活動による キャッシュ・フロー (千円)	△23,035	△78,446	△124,840	△77,450	133,054
財務活動による キャッシュ・フロー (千円)	△40,292	△39,682	△39,652	△79,909	△79,355
現金及び現金同等物の 中間期末(期末)残高 (千円)	902,733	756,920	640,941	729,799	882,973
従業員数 (ほか、平均臨時雇用者数) (名)	166 (16)	179 (15)	178 (13)	178 (15)	177 (15)

(注) 1 売上高には消費税等は含まれておりません。

2 潜在株式調整後1株当たり中間(当期)純利益金額については、潜在株式が存在しないため、記載しておりません。

3 従業員数は就業人員であり、臨時雇用人員は各会計期間の平均人員を () 外数で記載しております。

(2) 提出会社の経営指標等

回次	第118期中	第119期中	第120期中	第118期	第119期
会計期間	自 2018年 4月1日 至 2018年 9月30日	自 2019年 4月1日 至 2019年 9月30日	自 2020年 4月1日 至 2020年 9月30日	自 2018年 4月1日 至 2019年 3月31日	自 2019年 4月1日 至 2020年 3月31日
売上高 (千円)	2,317,119	2,224,488	1,710,102	4,579,259	4,371,740
経常利益又は経常損失 (△) (千円)	22,140	△63,287	△107,401	25,311	△135,995
中間(当期)純利益又は 中間(当期)純損失 (△) (千円)	12,032	△79,976	△132,124	21,994	△137,277
資本金 (千円)	1,222,600	1,222,600	1,222,600	1,222,600	1,222,600
発行済株式総数 (株)	12,300,000	12,300,000	12,300,000	12,300,000	12,300,000
純資産額 (千円)	2,366,238	2,300,987	2,099,688	2,375,536	2,231,818
総資産額 (千円)	7,385,423	7,121,989	6,671,824	7,389,396	7,021,198
1株当たり配当額 (円)	—	—	—	—	—
自己資本比率 (%)	32.0	32.3	31.5	32.1	31.8
従業員数 (名)	144	177	176	176	175

(注) 1 売上高には消費税等は含まれておりません。

2 従業員数は、就業人員数を表示しております。

3 中間連結財務諸表を作成しており、中間財務諸表に1株当たり純資産額、1株当たり中間(当期)純利益金額又は中間(当期)純損失金額及び潜在株式調整後1株当たり中間(当期)純利益金額を注記していないため、1株当たり純資産額、1株当たり中間(当期)純利益金額又は中間(当期)純損失金額及び潜在株式調整後1株当たり中間(当期)純利益金額の記載を省略しております。

2 【事業の内容】

当中間連結会計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。

3 【関係会社の状況】

当中間連結会計期間において、重要な関係会社の異動はありません。

4 【従業員の状況】

(1) 連結会社の状況

2020年9月30日現在

セグメントの名称	従業員数(名)
合成樹脂事業	94 (7)
化成品事業	50 (6)
全社(共通)	34
合計	178 (13)

- (注) 1 従業員数は、就業人員数であります。
2 従業員数欄の(外書)は、臨時従業員の当中間連結会計期間の平均雇用人員であります。
3 臨時従業員には、パート及び有期雇用契約者を含み、派遣社員を除いております。

(2) 提出会社の状況

2020年9月30日現在

セグメントの名称	従業員数(名)
合成樹脂事業	94
化成品事業	48
全社(共通)	34
合計	176

- (注) 1 従業員数は就業人員数であります。
2 臨時従業員数は、従業員数の100分の10未満のため、記載を省略しております。

(3) 労働組合の状況

当社には、太平化学製品労働組合があります。

なお労使関係については、特に記載すべき事項はありません。

第2 【事業の状況】

1 【経営方針、経営環境及び対処すべき課題等】

(1) 経営方針・経営環境及び対処すべき課題等

当中間連結会計期間において、当社グループの経営方針・経営環境及び対処すべき課題等について、既に提出した有価証券報告書に記載された内容に比して重要な変更はありません。

また、新たに定めた経営方針・経営環境及び対処すべき課題等はありません。

(2) 優先的に対処すべき事業上及び財務上の課題

当中間連結会計期間において、当社グループが優先的に対処すべき事業上及び財務上の課題等はありません。

また、新たに生じた事業上及び財務上の対処すべき課題はありません。

2 【事業等のリスク】

当中間連結会計期間において、当半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、経営者が当社グループの財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況に重要な影響を与える可能性があると認識している主要なリスクの発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」について、中国子会社においては、新型コロナウイルス感染症のリスク対応として、一時期休業を余儀なくされ、その後も在宅勤務や時短勤務体制で営業してはいましたが、影響が徐々に収束しつつあることから、従前での勤務体制による営業を行っております。当社においては、出荷状況を鑑み、6月より開始した生産調整を提出日現在も引き続き実施しております。これについては、今後の経営成績等に与える影響額を合理的に見積もることは困難であります。

3 【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

(業績等の概要)

(1) 経営成績等の状況の概要

当中間連結会計期間における当社グループ（当社、連結子会社）の財政状態、経営成績及びキャッシュ・フロー（以下、「経営成績等」という。）の状況の概要は次のとおりであります。

① 財政状態及び経営成績の状況

当中間連結会計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症の拡大による落ち込み後、経済活動の再開により、輸出や生産、個人消費を始めとした持ち直しの動きが見られるものの厳しい状況が続きました。このような状況のもと、当社グループでは市場への安定供給に加え、国内外の新規・開発需要の掘り起こしに努めてまいりましたが、化成品を主とする販売全般の落ち込みにより、売上高は1,850百万円と前年同期と比べ521百万円（同22.0%）の減収、営業損失は129百万円、対前年同期比96百万円の減益、経常損失は97百万円、対前年同期比53百万円の減益、親会社株主に帰属する中間純損失は127百万円、対前年同期比57百万円の減益となりました。

セグメントごとの経営成績は、次のとおりであります。

(合成樹脂事業)

合成樹脂事業は、水処理用部材及びカード用部材が低調に推移したことにより、売上高は、1,171百万円、対前年同期比214百万円（同15.5%）の減収、セグメント利益は、51百万円、対前年同期比1百万円（同3.4%）の減益となりました。

(化成品事業)

化成品事業は、主力のコンパウンド製品の大幅な落ち込みにより、売上高は、678百万円、対前年同期比306百万円（同31.1%）の減収、セグメント利益は、47百万円、対前年同期比106百万円（同69.1%）の減益となりました。

財政状態は、次のとおりであります。

当中間連結会計期間末における総資産は、現金及び預金、受取手形及び売掛金、電子記録債権、繰延税金資産が減少したことにより、前連結会計年度末と比較し、331百万円（同4.7%）減少し、6,721百万円となりました。

② キャッシュ・フローの状況

当中間連結会計期間末における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、前連結会計年度末に比べ242百万円減少し640百万円となりました。

当中間連結会計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動により使用した資金は、74百万円（前年同期比222百万円の使用）となりました。これは主に仕入債務の減少156百万円及び棚卸資産の増加91百万円、減価償却費51百万円の影響によるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動により使用した資金は、124百万円（前年同期比46百万円の使用）となりました。これは主に有形固定資産の取得123百万円によるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動により使用した資金は、39百万円（前年同期比0百万円の獲得）となりました。これは主に長期借入金の返済38百万円によるものであります。

③ 会計上の見積り及び当該見積りに用いた仮定

前事業年度の有価証券報告書に記載した「経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析」中の会計上の見積り及び当該見積りに用いた仮定の記載について重要な変更を行っております。

詳細は、「第5 経理の状況 1 中間連結財務諸表等 (1) 中間連結財務諸表 注記事項」の（追加情報）をご参照ください。

③ 生産、受注及び販売の実績

a. 生産実績

当中間連結会計期間における生産実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	金額(千円)	前年同期比(%)
合成樹脂事業	1,154,641	△11.4
化成品事業	577,351	△29.9
合計	1,731,992	△18.6

(注) 1 上記の金額は、販売価格によっております。

2 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

b. 商品仕入実績

当中間連結会計期間における商品仕入実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	金額(千円)	前年同期比(%)
合成樹脂事業	53,270	△10.9
化成品事業	182,735	△1.5
合計	236,005	△3.8

(注) 1 上記の金額は、実際仕入額によっております。

2 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

c. 受注実績

当社グループは、主として需要予測に基づく見込生産を行っているため、該当事項はありません。

d. 販売実績

当中間連結会計期間における販売実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	金額(千円)	前年同期比(%)
合成樹脂事業	1,171,352	△15.5
化成品事業	678,913	△31.1
合計	1,850,266	△22.0

(注) 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

(経営者の視点による経営成績等の状況に関する分析・検討内容)

(1) 経営成績の分析

当中間連結会計期間におきましては、当社グループでは新型コロナウイルス感染症の影響により、厳しい市場環境が継続するなか、市場への安定供給に加え、国内外の新規・開発需要の掘り起こしに努めてまいりましたが、化成品を主とする販売の大幅な落ち込みにより、売上高は1,850百万円（前年同期2,371百万円）となりました。売上総利益は、原材料価格の下落があったものの販売の大幅な落ち込みにより、217百万円（前年同期347百万円）となりました。販売費及び一般管理費は人件費、その他経費の削減に努めたものの営業損失は、129百万円（前年同期33百万円の営業損失）、経常損失は97百万円（前年同期44百万円の経常損失）、親会社株主に帰属する中間純損失は127百万円（前年同期70百万円の親会社株主に帰属する中間純損失）となりました。

(2) 財政状態の分析

(資産)

流動資産は、前連結会計年度末に比べて386百万円減少し、3,305百万円となりました。これは主に、現金及び預金、受取手形及び売掛金、電子記録債権が510百万円減少し、商品及び製品、仕掛品、未収入金が129百万円増加したことなどによるものであります。

固定資産は、前連結会計年度末に比べて54百万円増加し、3,415百万円となりました。これは主に、土地、建設仮勘定が104百万円増加し、繰延税金資産、機械装置及び運搬具が44百万円減少したことなどによるものであります。

この結果、資産合計は、前連結会計年度末に比べて331百万円減少し、6,721百万円となりました。

(負債)

流動負債は、前連結会計年度末に比べて207百万円減少し、3,535百万円となりました。これは主に、支払手形及び買掛金、未払消費税等、電子記録債務が194百万円減少したことなどによるものであります。

固定負債は、前連結会計年度末に比べて6百万円増加し、1,071百万円となりました。これは主に、退職給付に係る負債及び役員退職慰労引当金が44百万円増加し、長期借入金が38百万円減少したことなどによるものであります。

この結果、負債合計は、前連結会計年度末に比べて201百万円減少し、4,607百万円となりました。

(純資産)

純資産合計は、前連結会計年度末に比べて130百万円減少し、2,114百万円となりました。これは主に、利益剰余金が127百万円減少したことなどによるものであります。

(3) キャッシュ・フローの状況の分析

キャッシュ・フローの状況については、「業績等の概要」に記載しております。

(4) 資本の財源及び資金の流動性に係る情報

新型コロナウイルス感染症の影響により、当社は2020年6月以降も引き続き生産調整を行っていることから、当社グループのキャッシュ・フローの状況に影響を及ぼす可能性があります。中国子会社は、従前の体制にて営業を行っており、また、当社においても「第5 経理の状況 1 中間連結財務諸表等 (1) 中間連結財務諸表 注記事項」の(重要な後発事象)に記載の通り、新型コロナウイルス感染症に対応するため返済期間に余裕のある資金の借入を行っていることから、翌期以降においても十分な手元現預金の水準を確保できる状況にあると考えております。

4 【経営上の重要な契約等】

該当事項はありません。

5 【研究開発活動】

特記すべき事項はありません。

第3 【設備の状況】

1 【主要な設備の状況】

当中間連結会計期間において、主要な設備に重要な異動はありません。

2 【設備の新設、除却等の計画】

前連結会計年度末において、計画中又は実施中の重要な設備の新設、除却等はありません。また、当中間連結会計期間において、新たに確定した重要な設備の新設、拡充、改修、除却、売却等の計画はありません。

第4 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

① 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	16,000,000
計	16,000,000

② 【発行済株式】

種類	中間会計期間末 現在発行数(株) (2020年9月30日)	提出日現在 発行数(株) (2020年12月28日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	12,300,000	12,300,000	非上場、非登録	単元株式数は 1,000株であります。
計	12,300,000	12,300,000	—	—

(2) 【新株予約権等の状況】

① 【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

② 【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【発行済株式総数、資本金等の状況】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
2020年4月1日～ 2020年9月30日	—	12,300,000	—	1,222,600	—	958,677

(5) 【大株主の状況】

2020年9月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式 (自己株式を 除く。)の総数 に対する所有 株式数の割合 (%)
東ソー株式会社	東京都港区芝三丁目8番2号	8,931	78.89
株式会社みずほ銀行	東京都千代田区大手町一丁目5番5号	290	2.56
あいおいニッセイ同和損害保険株式会社	東京都渋谷区恵比寿一丁目28番1号	200	1.77
高梨嘉嗣	千葉県浦安市	150	1.32
東ソー・ニックミ株式会社	東京都港区芝二丁目5番10号	143	1.26
中村和幸	埼玉県川口市	129	1.14
山野靖博	富山県滑川市	88	0.78
押切豊彦	東京都立川市	82	0.72
プラス・テク株式会社	茨城県稲敷郡阿見町大字香澄の里1-1	80	0.71
押切京子	神奈川県相模原市	66	0.58
計	—	10,159	89.73

(注) 上記のほか、証券保管振替機構名義の株式が135千株あります。

(6) 【議決権の状況】

① 【発行済株式】

2020年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	—	—	—
議決権制限株式(自己株式等)	—	—	—
議決権制限株式(その他)	—	—	—
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 978,000	—	—
完全議決権株式(その他)	普通株式 11,290,000	11,290	—
単元未満株式	普通株式 32,000	—	1単元(1,000株)未満の株式
発行済株式総数	12,300,000	—	—
総株主の議決権	—	11,290	—

(注) 1 上記「完全議決権株式(その他)」の欄には、証券保管振替機構名義の株式が135,000株(議決権135個)含まれております。

2 「単元未満株式」には当社保有の自己株式951株が含まれております。

② 【自己株式等】

2020年9月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) 太平化学製品株式会社	埼玉県川口市領家四丁目 5番19号	978,000	—	978,000	7.95
計	—	978,000	—	978,000	7.95

2 【役員の状況】

前事業年度の有価証券報告書の提出日後、当半期報告書の提出日までにおいて、役員の異動はありません。

第5 【経理の状況】

1 中間連結財務諸表及び中間財務諸表の作成方法について

(1) 当社の中間連結財務諸表は、「中間連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成11年大蔵省令第24号)に基づいて作成しております。

(2) 当社の中間財務諸表は、「中間財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和52年大蔵省令第38号)に基づいて作成しております。

2 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、中間連結会計期間(2020年4月1日から2020年9月30日まで)の中間連結財務諸表及び中間会計期間(2020年4月1日から2020年9月30日まで)の中間財務諸表について、東邦監査法人の中間監査を受けております。

1 【中間連結財務諸表等】

(1) 【中間連結財務諸表】

① 【中間連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2020年3月31日)	当中間連結会計期間 (2020年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	882,973	640,941
受取手形及び売掛金	1,240,644	988,244
電子記録債権	194,367	178,429
商品及び製品	807,754	878,752
仕掛品	262,811	289,730
原材料及び貯蔵品	275,906	269,395
その他	27,409	60,207
流動資産合計	3,691,867	3,305,701
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	248,049	246,596
機械装置及び運搬具（純額）	249,327	232,654
土地	2,757,967	2,832,324
リース資産（純額）	4,071	3,020
建設仮勘定	11,367	42,000
その他（純額）	12,308	11,407
有形固定資産合計	※1 3,283,092	※1 3,368,004
無形固定資産		
ソフトウェア	3,098	2,808
電話加入権	2,485	2,485
無形固定資産合計	5,583	5,294
投資その他の資産		
投資有価証券	3,862	3,884
繰延税金資産	49,093	21,735
その他	19,426	17,047
投資その他の資産合計	72,382	42,667
固定資産合計	3,361,059	3,415,966
資産合計	7,052,926	6,721,667

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2020年3月31日)	当中間連結会計期間 (2020年9月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	769,191	638,754
電子記録債務	98,000	70,344
短期借入金	2,400,000	2,400,000
1年内返済予定の長期借入金	77,000	77,000
リース債務	2,265	2,265
未払金	184,895	171,491
未払法人税等	15,696	11,541
未払消費税等	44,318	7,474
未払費用	40,229	48,019
賞与引当金	91,076	89,987
設備関係支払手形	15,323	9,200
その他	5,348	9,687
流動負債合計	3,743,345	3,535,767
固定負債		
長期借入金	153,500	115,000
リース債務	2,211	1,079
役員退職慰労引当金	36,010	40,772
退職給付に係る負債	795,363	835,078
長期預り保証金	73,344	75,159
その他	4,566	4,466
固定負債合計	1,064,995	1,071,556
負債合計	4,808,341	4,607,324
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,222,600	1,222,600
資本剰余金	958,677	958,677
利益剰余金	108,256	△19,616
自己株式	△39,639	△39,659
株主資本合計	2,249,894	2,122,001
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	1,114	1,129
為替換算調整勘定	△6,423	△8,787
その他の包括利益累計額合計	△5,308	△7,658
純資産合計	2,244,585	2,114,343
負債純資産合計	7,052,926	6,721,667

② 【中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書】

【中間連結損益計算書】

(単位：千円)

	前中間連結会計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)	当中間連結会計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)
売上高	2,371,387	1,850,266
売上原価	2,023,471	1,633,218
売上総利益	347,915	217,047
販売費及び一般管理費		
運送費	61,285	50,137
広告宣伝費	3,314	495
給料及び手当	158,206	147,664
賞与引当金繰入額	35,573	31,319
退職給付費用	10,989	10,775
役員退職慰労引当金繰入額	4,242	4,762
法定福利費	36,258	32,811
旅費及び交通費	9,021	955
事務費	15,347	15,618
研究開発費	7,222	15,226
減価償却費	14,539	8,456
その他	25,487	28,752
販売費及び一般管理費合計	381,492	346,975
営業損失(△)	△33,576	△129,928
営業外収益		
受取利息	0	0
受取配当金	2,801	160
スクラップ売却益	1,529	1,084
雇用調整助成金	-	※1 44,370
その他	842	2,206
営業外収益合計	5,173	47,821
営業外費用		
支払利息	13,383	12,105
為替差損	1,111	289
その他	1,570	3,241
営業外費用合計	16,065	15,636
経常損失(△)	△44,468	△97,743
特別利益		
固定資産売却益	-	199
特別利益合計	-	199
特別損失		
固定資産除却損	8,040	1,991
特別損失合計	8,040	1,991
税金等調整前中間純損失(△)	△52,508	△99,534
法人税等	※2 17,933	※2 28,337
中間純損失(△)	△70,442	△127,872
親会社株主に帰属する中間純損失(△)	△70,442	△127,872

【中間連結包括利益計算書】

(単位：千円)

	前中間連結会計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)	当中間連結会計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)
中間純損失 (△)	△70,442	△127,872
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	5,477	15
為替換算調整勘定	△2,310	△2,364
その他の包括利益合計	3,166	△2,349
中間包括利益	△67,275	△130,222
(内訳)		
親会社株主に係る中間包括利益	△67,275	△130,222
非支配株主に係る中間包括利益	-	-

③ 【中間連結株主資本等変動計算書】

前中間連結会計期間(自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)

(単位：千円)

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	1,222,600	958,677	243,501	△39,549	2,385,229
当中間期変動額					
剰余金の配当			—		—
親会社株主に帰属する中間純損失(△)			△70,442		△70,442
自己株式の取得				△50	△50
株主資本以外の項目の当中間期変動額(純額)					
当中間期変動額合計	—	—	△70,442	△50	△70,492
当中間期末残高	1,222,600	958,677	173,059	△39,599	2,314,737

	その他の包括利益累計額			純資産合計
	その他有価証券評価差額金	為替換算調整勘定	その他の包括利益累計額合計	
当期首残高	7,464	△5,552	1,912	2,387,142
当中間期変動額				
剰余金の配当				—
親会社株主に帰属する中間純損失(△)				△70,442
自己株式の取得				△50
株主資本以外の項目の当中間期変動額(純額)	5,477	△2,310	3,166	3,166
当中間期変動額合計	5,477	△2,310	3,166	△67,325
当中間期末残高	12,942	△7,863	5,079	2,319,816

当中間連結会計期間(自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)

(単位：千円)

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	1,222,600	958,677	108,256	△39,639	2,249,894
当中間期変動額					
剰余金の配当			—		—
親会社株主に帰属する中間純損失(△)			△127,872		△127,872
自己株式の取得				△20	△20
株主資本以外の項目の当中間期変動額(純額)					
当中間期変動額合計	—	—	△127,872	△20	△127,892
当中間期末残高	1,222,600	958,677	△19,616	△39,659	2,122,001

	その他の包括利益累計額			純資産合計
	その他有価証券評価差額金	為替換算調整勘定	その他の包括利益累計額合計	
当期首残高	1,114	△6,423	△5,308	2,244,585
当中間期変動額				
剰余金の配当				—
親会社株主に帰属する中間純損失(△)				△127,872
自己株式の取得				△20
株主資本以外の項目の当中間期変動額(純額)	15	△2,364	△2,349	△2,349
当中間期変動額合計	15	△2,364	△2,349	△130,242
当中間期末残高	1,129	△8,787	△7,658	2,114,343

④ 【中間連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前中間連結会計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)	当中間連結会計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前中間純損失 (△)	△52,508	△99,534
減価償却費	62,416	51,551
退職給付に係る負債の増減額 (△は減少)	△33,995	39,714
役員退職慰労引当金の増減額 (△は減少)	3,042	4,762
賞与引当金の増減額 (△は減少)	1,266	△1,089
受取利息及び受取配当金	△2,801	△160
支払利息	13,383	12,105
有形固定資産除却損	8,040	1,991
売上債権の増減額 (△は増加)	245,830	267,455
たな卸資産の増減額 (△は増加)	21,431	△91,521
仕入債務の増減額 (△は減少)	△115,913	△156,590
未払消費税等の増減額 (△は減少)	21,806	△36,843
その他	△6,051	△52,116
小計	165,947	△60,274
利息及び配当金の受取額	2,801	160
利息の支払額	△13,467	△12,118
法人税等の支払額	△7,774	△2,519
営業活動によるキャッシュ・フロー	147,506	△74,752
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△70,654	△123,086
有形固定資産の除却による支出	△7,792	△1,927
その他	-	173
投資活動によるキャッシュ・フロー	△78,446	△124,840
財務活動によるキャッシュ・フロー		
長期借入金の返済による支出	△38,500	△38,500
リース債務の返済による支出	△1,132	△1,132
自己株式の取得による支出	△50	△20
財務活動によるキャッシュ・フロー	△39,682	△39,652
現金及び現金同等物に係る換算差額	△2,257	△2,787
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	27,121	△242,032
現金及び現金同等物の期首残高	729,799	882,973
現金及び現金同等物の中間期末残高	※1 756,920	※1 640,941

【注記事項】

(中間連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項)

1 連結の範囲に関する事項

すべての子会社を連結しております。

連結子会社の数 1社

名称 泰賀（上海）貿易有限公司

2 持分法の適用に関する事項

該当する会社はありません。

3 連結子会社の中間決算日等に関する事項

連結子会社の泰賀（上海）貿易有限公司の中間決算日は、6月30日であります。

中間連結財務諸表の作成にあたっては、同日現在の中間財務諸表を使用し、中間連結決算日との間に生じた重要な取引については、連結上必要な調整を行っております。

4 会計方針に関する事項

(1) 重要な資産の評価基準及び評価方法

① 有価証券

その他有価証券

時価のあるもの

中間連結決算日の市場価格等に基づく時価法によっております。

(評価差額は、全部純資産直入法により処理し、売却原価は、移動平均法により算定)

時価のないもの

移動平均法による原価法によっております。

② たな卸資産

通常の販売目的で保有するたな卸資産

評価基準は原価法(収益性の低下に基づく簿価切下げの方法)によっております。

a 商品及び製品

月別総平均法

b 仕掛品

月別総平均法

c 原材料及び貯蔵品

月別総平均法

(2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法

① 有形固定資産（リース資産を除く）

定額法を採用しております。

なお、主な耐用年数は以下のとおりであります。

建物及び構築物 3～41年

機械装置及び運搬具 4～8年

② 無形固定資産（リース資産を除く）

自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間（5年）に基づく定額法を採用しております。

③ リース資産

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。

(3) 重要な引当金の計上基準

① 貸倒引当金

売上債権、貸付金等の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。なお、当中間連結会計期間末における計上はありません。

② 賞与引当金

従業員に支給する賞与に充てるため、支給見込額に基づき計上しております。

③ 役員退職慰労引当金

役員の退職慰労金の支出に備えるため、内規に基づく中間期末要支給額を計上しております。

(4) 退職給付に係る会計処理の方法

当社及び連結子会社は、退職給付に係る負債及び退職給付費用の計算に、退職給付に係る中間期末自己都合要支給額を退職給付債務とする方法を用いた簡便法を適用しております。

(5) 重要なヘッジ会計の方法

① ヘッジ会計の方法

振当処理の要件を充たす為替予約については、振当処理を行っております。なお、当期での該当はありません。

② ヘッジ手段

為替予約取引

③ ヘッジ対象

外貨建買入債務

④ ヘッジ方針

内部規程に基づき将来の為替相場の変動リスク回避を目的としており、投機的な取引は行わない方針であります。

⑤ ヘッジ有効性評価の方法

為替予約の締結時に、リスク管理方針に従って為替予約を振当てており、その後の為替相場の変動による相関関係は完全に確保されていることから、中間決算日における有効性の評価を省略しています。

(6) 中間連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲

中間連結キャッシュ・フロー計算書における資金(現金及び現金同等物)は、手許現金、随時引き出し可能な預金及び容易に換金可能であり、かつ、価値の変動について僅少なリスクしか負わない取得日から3ヶ月以内に償還期限の到来する短期投資からなっております。

(7) その他中間連結財務諸表作成のための重要な事項

消費税等の会計処理

消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方式によっております。

(追加情報)

当社グループは、当初新型コロナウイルス感染症による影響が2020年9月頃まで続くものと仮定し、繰延税金資産の回収可能性の判断等を見積りを行っておりましたが、新型コロナウイルス感染症の影響が収束せず、少なくとも当連結会計期間末まで影響が続くものと仮定し、繰延税金資産の回収可能性を検討した結果、当中間連結会計期間末において繰延税金資産の一部を取崩しております。なお、この仮定は不確実性が高く、収束が遅延し、影響が長期化した場合において更に損失が発生する可能性があります。

(中間連結貸借対照表関係)

※1 有形固定資産の減価償却累計額

	前連結会計年度 (2020年3月31日)	当中間連結会計期間 (2020年9月30日)
有形固定資産の減価償却累計額	4,789,567千円	5,148,232千円

(中間連結損益計算書関係)

※1 雇用調整助成金は、新型コロナウイルス感染症の影響に伴い、雇用調整助成金の特例措置の適用を受けたものであり、当該支給額及び支給見込み額を計上しております。

※2 中間連結会計期間における税金費用については、簡便法による税効果会計を適用しているため、法人税等調整額は「法人税等」に含めて表示しております。

(中間連結株主資本等変動計算書関係)

前中間連結会計期間(自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)

1 発行済株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首	増加	減少	当中間連結会計期間末
普通株式(株)	12,300,000	—	—	12,300,000

2 自己株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首	増加	減少	当中間連結会計期間末
普通株式(株)	976,201	1,250	—	977,451

(変動事由の概要)

単元未満株式の買取による増加1,250株

3 新株予約権等に関する事項

該当事項はありません。

4 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

該当事項はありません。

当中間連結会計期間(自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)

1 発行済株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首	増加	減少	当中間連結会計期間末
普通株式(株)	12,300,000	—	—	12,300,000

2 自己株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首	増加	減少	当中間連結会計期間末
普通株式(株)	978,451	500	—	978,951

(変動事由の概要)

単元未満株式の買取による増加500株

3 新株予約権等に関する事項

該当事項はありません。

4 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

該当事項はありません。

(中間連結キャッシュ・フロー計算書関係)

※1 現金及び現金同等物の中間期末残高と中間連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は、次のとおりであります。

	前中間連結会計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)	当中間連結会計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)
現金及び預金	756,920千円	640,941千円
現金及び現金同等物の 中間期末残高	756,920千円	640,941千円

(金融商品関係)

金融商品の時価等に関する事項

中間連結貸借対照表計上額（連結貸借対照表計上額）、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは、次表には含めておりません（注2）を参照ください。）。

前連結会計年度(2020年3月31日)

(単位：千円)

	連結貸借対照表 計上額	時価	差額
(1) 現金及び預金	882,973	882,973	—
(2) 受取手形及び売掛金	1,240,644	1,240,644	—
(3) 電子記録債権	194,367	194,367	—
(4) 投資有価証券 その他有価証券	3,302	3,302	—
資産計	2,321,287	2,321,287	—
(1) 支払手形及び買掛金	769,191	769,191	—
(2) 電子記録債務	98,000	98,000	—
(3) 短期借入金	2,400,000	2,400,000	—
(4) 長期借入金（一年以内返済予定含む）	230,500	230,603	103
負債計	3,497,691	3,497,795	103

当中間連結会計期間(2020年9月30日)

(単位：千円)

	中間連結貸借対照表 計上額	時価	差額
(1) 現金及び預金	640,941	640,491	—
(2) 受取手形及び売掛金	988,244	988,244	—
(3) 電子記録債権	178,429	178,429	—
(4) 投資有価証券 その他有価証券	3,324	3,324	—
資産計	1,810,938	1,810,938	—
(1) 支払手形及び買掛金	638,754	638,754	—
(2) 電子記録債務	70,344	70,344	—
(3) 短期借入金	2,400,000	2,400,000	—
(4) 長期借入金（一年以内返済予定含む）	192,000	192,284	284
負債計	3,301,099	3,301,383	284

(注1) 金融商品の時価の算定方法並びに有価証券及びデリバティブ取引に関する事項

資 産

- (1) 現金及び預金、(2) 受取手形及び売掛金、並びに(3) 電子記録債権

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

- (4) 投資有価証券

これらの時価について、株式は取引所の価格によっております。

また、保有目的ごとの有価証券に関する注記事項については、「有価証券関係」注記を参照ください。

負 債

- (1) 支払手形及び買掛金、(2) 電子記録債務、並びに(3) 短期借入金

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

- (4) 長期借入金（一年以内返済予定含む）

長期借入金の時価については、元利金の合計額を、新規に同様の借入を行った場合に想定される利率で割り引いた現在価値により算定しております。

(注2) 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品の中間連結貸借対照表計上額（連結貸借対照表計上額）

（単位：千円）

区分	2020年3月31日	2020年9月30日
非上場株式	560	560

上記については、市場価格がなく、かつ将来キャッシュ・フローを見積もることなどができず、時価を把握することが極めて困難と認められるため、「(4) 投資有価証券 その他有価証券」には含めておりません。

(有価証券関係)

その他有価証券

前連結会計年度(2020年3月31日)

(単位:千円)

区分	連結貸借対照表計上額	取得原価	差額
連結貸借対照表計上額が 取得原価を超えるもの 株式	3,302	1,700	1,602
小計	3,302	1,700	1,602
連結貸借対照表計上額が 取得原価を超えないもの 株式	—	—	—
小計	—	—	—
合計	3,302	1,700	1,602

当中間連結会計期間(2020年9月30日)

(単位:千円)

区分	中間連結貸借対照表計上額	取得原価	差額
中間連結貸借対照表計上額 が取得原価を超えるもの 株式	3,324	1,700	1,624
小計	3,324	1,700	1,624
中間連結貸借対照表計上額 が取得原価を超えないもの 株式	—	—	—
小計	—	—	—
合計	3,324	1,700	1,624

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

1 報告セグメントの概要

(1) 報告セグメントの決定方法

当社グループの報告セグメントは、当社グループの構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が、経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行っている対象となっているものであります。

当社グループは、草加工場及び川口工場に製品・サービス別の製造・販売組織を置き、各組織は取り扱う製品・サービスについて国内及び海外の包括的な戦略を立案し、事業活動を展開しております。

従って、当社グループは生産・販売体制を基礎とした製品・サービス別セグメントから構成されており、「合成樹脂事業」、「化成品事業」の2つを報告セグメントとしております。

(2) 各報告セグメントに属する製品及びサービスの種類

「合成樹脂事業」は、硬質塩化ビニル、セルロース系樹脂、アクリル、PETG、ポリスチレン、ポリカーボネート樹脂など各種樹脂を原料にフィルム・シート等の加工品を製造・販売しております。「化成品事業」は、顔料高度分散体であるカラーチップや粘接着剤塗工製品等を製造・販売しております。

2 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額の算定方法

報告されている事業セグメントの会計処理の方法は、「中間連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項」における記載と同一であります。

報告セグメントの利益は、営業利益ベースの数値であります。

3 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額に関する情報

前中間連結会計期間(自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)

(単位：千円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	中間連結 財務諸表 計上額 (注) 2
	合成樹脂事業	化成品事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	1,386,279	985,108	2,371,387	—	2,371,387
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	—	—	—	—
計	1,386,279	985,108	2,371,387	—	2,371,387
セグメント利益	53,137	154,701	207,838	△241,415	△33,576
セグメント資産	5,087,615	974,028	6,061,643	1,103,952	7,165,596
セグメント負債	715,484	313,822	1,029,307	3,816,472	4,845,780
その他の項目					
減価償却費	36,252	11,682	47,934	14,481	62,416
有形固定資産及び 無形固定資産の増加額	34,815	21,354	56,169	1,056	57,225

(注) 1 調整額は、以下のとおりであります。

(1) セグメント利益の調整額△241,415千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用△241,415千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

- (2) セグメント資産の調整額1,103,952千円は、各報告セグメントに配分していない全社資産であります。全社資産は、主に報告セグメントに帰属しない金融資産であります。
- (3) セグメント負債の調整額3,816,472千円は、各報告セグメントに配分していない全社負債であります。全社負債は、主に報告セグメントに帰属しない借入金であります。
- 2 セグメント利益は、中間連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

当中間連結会計期間(自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)

(単位：千円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	中間連結 財務諸表 計上額 (注) 2
	合成樹脂事業	化成品事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	1,171,352	678,913	1,850,266	—	1,850,266
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	—	—	—	—
計	1,171,352	678,913	1,820,266	—	1,850,266
セグメント利益	51,345	47,800	99,145	△229,073	△129,928
セグメント資産	4,929,705	1,003,932	5,933,638	788,028	6,721,667
セグメント負債	636,551	237,651	874,203	3,733,120	4,607,324
その他の項目					
減価償却費	31,700	11,432	43,132	8,418	51,551
有形固定資産及び 無形固定資産の増加額	29,164	102,589	131,753	5,752	137,506

(注) 1 調整額は、以下のとおりであります。

- (1) セグメント利益の調整額△229,073千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用△229,073千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。
- (2) セグメント資産の調整額788,028千円は、各報告セグメントに配分していない全社資産であります。全社資産は、主に報告セグメントに帰属しない金融資産であります。
- (3) セグメント負債の調整額3,733,120千円は、各報告セグメントに配分していない全社負債であります。全社負債は、主に報告セグメントに帰属しない借入金であります。
- 2 セグメント利益は、中間連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

【関連情報】

前中間連結会計期間(自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)

1 製品及びサービスごとの情報

セグメント情報に同様の情報を開示しているため、記載を省略しております。

2 地域ごとの情報

(1) 売上高

当社グループは、本邦の外部顧客への売上高に区分した金額が中間連結損益計算書の売上高の90%を超えるため、地域ごとの売上高の記載を省略しております。

(2) 有形固定資産

当社グループは、本邦に所在している有形固定資産の金額が中間連結貸借対照表の有形固定資産の金額の90%を超えるため、記載を省略しております。

3 主要な顧客ごとの情報

外部顧客への売上高のうち、中間連結損益計算書の売上高の10%以上を占める相手先がないため、記載を省略しております。

当中間連結会計期間(自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)

1 製品及びサービスごとの情報

セグメント情報に同様の情報を開示しているため、記載を省略しております。

2 地域ごとの情報

(1) 売上高

当社グループは、本邦の外部顧客への売上高に区分した金額が中間連結損益計算書の売上高の90%を超えるため、地域ごとの売上高の記載を省略しております。

(2) 有形固定資産

当社グループは、本邦に所在している有形固定資産の金額が中間連結貸借対照表の有形固定資産の金額の90%を超えるため、記載を省略しております。

3 主要な顧客ごとの情報

外部顧客への売上高のうち、中間連結損益計算書の売上高の10%以上を占める相手先がないため、記載を省略しております。

【報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報】

該当事項はありません。

【報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報】

該当事項はありません。

【報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報】

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

1株当たり純資産額及び算定上の基礎並びに1株当たり中間純損失金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前連結会計年度 (2020年3月31日)	当中間連結会計期間 (2020年9月30日)
(1) 1株当たり純資産額	198.25円	186.76円
(算定上の基礎)		
純資産の部の合計額	2,244,585千円	2,114,343千円
普通株式に係る中間期末(期末)の純資産額	2,244,585千円	2,114,343千円
普通株式の発行済株式数	12,300,000株	12,300,000株
普通株式の自己株式数	978,451株	978,951株
1株当たり純資産額の算定に用いられた中間期末(期末)の普通株式の数	11,321,549株	11,321,049株

項目	前中間連結会計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)	当中間連結会計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)
(2) 1株当たり中間純損失金額(△)	△6.22円	△11.29円
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する中間純損失金額(△)	△70,442千円	△127,872千円
普通株主に帰属しない金額	—	—
普通株式に係る親会社株主に帰属する中間純損失金額(△)	△70,442千円	△127,872千円
普通株式の期中平均株式数	11,322,798株	11,321,207株

(注) 潜在株式調整後1株当たり中間純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

(多額の資金の借入)

当社は新型コロナウイルス感染症の影響による販売の落ち込みへの対応及び今後の設備投資に対する資金調達の必要性から、以下の借入を実行しております。

(1) 資金用途：設備資金及び運転資金

(2) 借入先：株式会社みずほ銀行、三井住友信託銀行株式会社、株式会社商工組合中央金庫

(3) 借入金額：700百万円

(4) 借入利率：固定金利(但し、株式会社商工組合中央金庫の新型コロナウイルス感染症特別貸付は当初3年間は無利息)

(5) 借入実行日：2020年10月23日及び10月30日

(6) 借入期間：7年

(7) 担保の有無：無担保、無保証

(2) 【その他】

該当事項はありません。

2 【中間財務諸表等】

(1) 【中間財務諸表】

① 【中間貸借対照表】

(単位：千円)

	前事業年度 (2020年3月31日)	当中間会計期間 (2020年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	785,850	551,084
受取手形	273,389	204,275
売掛金	975,150	785,722
電子記録債権	194,367	178,429
商品及び製品	803,757	878,752
仕掛品	262,811	289,730
原材料及び貯蔵品	275,906	269,395
その他	57,062	61,830
流動資産合計	3,628,296	3,219,221
固定資産		
有形固定資産		
建物（純額）	216,903	216,425
機械及び装置（純額）	249,327	232,654
土地	2,757,967	2,832,324
その他（純額）	58,565	86,251
有形固定資産合計	3,282,764	3,367,656
無形固定資産		
ソフトウェア	3,098	2,783
電話加入権	2,485	2,485
無形固定資産合計	5,583	5,268
投資その他の資産		
投資有価証券	3,862	3,884
関係会社株式	30,642	30,642
その他	70,049	45,151
投資その他の資産合計	104,553	79,677
固定資産合計	3,392,902	3,452,602
資産合計	7,021,198	6,671,824

(単位：千円)

	前事業年度 (2020年3月31日)	当中間会計期間 (2020年9月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形	18,812	15,016
買掛金	736,717	594,087
電子記録債務	98,000	70,344
短期借入金	2,400,000	2,400,000
1年内返済予定の長期借入金	77,000	77,000
リース債務	2,265	2,265
未払金	180,865	170,694
未払法人税等	14,584	10,932
賞与引当金	91,076	89,987
その他	※1 105,062	※1 70,251
流動負債合計	3,724,384	3,500,578
固定負債		
長期借入金	153,500	115,000
リース債務	2,211	1,079
退職給付引当金	795,363	835,078
役員退職慰労引当金	36,010	40,772
その他	77,910	79,626
固定負債合計	1,064,995	1,071,556
負債合計	4,789,380	4,572,135
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,222,600	1,222,600
資本剰余金		
資本準備金	958,677	958,677
資本剰余金合計	958,677	958,677
利益剰余金		
利益準備金	33,100	33,100
その他利益剰余金		
繰越利益剰余金	55,966	△76,158
利益剰余金合計	89,066	△43,058
自己株式	△39,639	△39,659
株主資本合計	2,230,704	2,098,559
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	1,114	1,129
評価・換算差額等合計	1,114	1,129
純資産合計	2,231,818	2,099,688
負債純資産合計	7,021,198	6,671,824

② 【中間損益計算書】

(単位：千円)

	前中間会計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)	当中間会計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)
売上高	2,224,488	1,710,102
売上原価	1,915,208	1,516,802
売上総利益	309,280	193,299
販売費及び一般管理費	367,364	338,086
営業損失(△)	△58,084	△144,786
営業外収益	※1 12,154	※1 52,631
営業外費用	※2 17,357	※2 15,247
経常損失(△)	△63,287	△107,401
特別利益	-	199
特別損失	※3 8,040	※3 1,991
税引前中間純損失(△)	△71,328	△109,193
法人税等	※4 8,647	※4 22,931
中間純損失(△)	△79,976	△132,124

③ 【中間株主資本等変動計算書】

前中間会計期間(自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)

(単位：千円)

	株主資本					
	資本金	資本剰余金		利益剰余金		
		資本準備金	資本剰余金合計	利益準備金	その他利益剰余金 繰越利益剰余金	利益剰余金合計
当期首残高	1,222,600	958,677	958,677	33,100	193,243	226,343
当中間期変動額						
剰余金の配当					—	—
中間純損失(△)					△79,976	△79,976
自己株式の取得						
株主資本以外の項目 の当中間期変動額 (純額)						
当中間期変動額合計	—	—	—	—	△79,976	△79,976
当中間期末残高	1,222,600	958,677	958,677	33,100	113,267	146,367

	株主資本		評価・換算差額等		純資産合計
	自己株式	株主資本合計	その他有価証券 評価差額金	評価・換算 差額等合計	
当期首残高	△39,549	2,368,071	7,464	7,464	2,375,536
当中間期変動額					
剰余金の配当		—			—
中間純損失(△)		△79,976			△79,976
自己株式の取得	△50	△50			△50
株主資本以外の項目 の当中間期変動額 (純額)			5,477	5,477	5,477
当中間期変動額合計	△50	△80,026	5,477	5,477	△74,548
当中間期末残高	△39,599	2,288,045	12,942	12,942	2,300,987

当中間会計期間(自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)

(単位：千円)

	株主資本					
	資本金	資本剰余金		利益剰余金		
		資本準備金	資本剰余金合計	利益準備金	その他利益剰余金 繰越利益剰余金	利益剰余金合計
当期首残高	1,222,600	958,677	958,677	33,100	55,966	89,066
当中間期変動額						
剰余金の配当					—	—
中間純損失(△)					△132,124	△132,124
自己株式の取得						
株主資本以外の項目 の当中間期変動額 (純額)						
当中間期変動額合計	—	—	—	—	△132,124	△132,124
当中間期末残高	1,222,600	958,677	958,677	33,100	△76,158	△43,058

	株主資本		評価・換算差額等		純資産合計
	自己株式	株主資本合計	その他有価証券 評価差額金	評価・換算 差額等合計	
当期首残高	△39,639	2,230,704	1,114	1,114	2,231,818
当中間期変動額					
剰余金の配当		—			—
中間純損失(△)		△132,124			△132,124
自己株式の取得	△20	△20			△20
株主資本以外の項目 の当中間期変動額 (純額)			15	15	15
当中間期変動額合計	△20	△132,144	15	15	△132,129
当中間期末残高	△39,659	2,098,559	1,129	1,129	2,099,688

【注記事項】

(重要な会計方針)

1 資産の評価基準及び評価方法

(1) 有価証券

子会社株式

移動平均法による原価法によっております。

その他有価証券

時価のあるもの

中間決算日の市場価格等に基づく時価法によっております。

(評価差額は、全部純資産直入法により処理し、売却原価は、移動平均法により算定)

時価のないもの

移動平均法による原価法によっております。

(2) たな卸資産

通常の販売目的で保有するたな卸資産

評価基準は原価法(収益性の低下に基づく簿価切下げの方法)によっております。

a 商品及び製品

月別総平均法

b 仕掛品

月別総平均法

c 原材料及び貯蔵品

月別総平均法

2 固定資産の減価償却の方法

(1) 有形固定資産(リース資産を除く)

定額法を採用しております。

なお、主な耐用年数は以下のとおりであります。

建物 3～41年

機械及び装置 4～8年

(2) 無形固定資産(リース資産を除く)

自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間(5年)に基づく定額法を採用しております。

(3) リース資産

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。

3 引当金の計上基準

(1) 貸倒引当金

売上債権、貸付金等の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。なお、当中間会計期間末における計上はありません。

(2) 賞与引当金

従業員に支給する賞与に充てるため、支給見込額に基づき計上しております。

(3) 退職給付引当金

従業員の退職給付に備えるため、当中間会計期間末における退職給付債務の見込額に基づき計上しております。

退職給付引当金及び退職給付費用の計算に、退職給付に係る中間期末自己都合要支給額を退職給付債務とする方法を用いた簡便法を適用しております。

(4) 役員退職慰労引当金

役員の退職慰労金の支出に備えるため、内規に基づく中間期末要支給額を計上しております。

4 重要なヘッジ会計の方法

(1) ヘッジ会計の方法

振当処理の要件を充たす為替予約については、振当処理を行っております。なお、当期での該当はありません。

(2) ヘッジ手段

為替予約取引

(3) ヘッジ対象

外貨建買入債務

(4) ヘッジ方針

内部規程に基づき将来の為替相場の変動リスク回避を目的としており、投機的な取引は行わない方針であります。

(5) ヘッジ有効性評価の方法

為替予約の締結時に、リスク管理方針に従って為替予約を振当てており、その後の為替相場の変動による相関関係は完全に確保されていることから、中間決算日における有効性の評価を省略しています。

5 その他中間財務諸表作成のための基本となる重要な事項

消費税等の会計処理

消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方式によっております。

(追加情報)

当社は、当初新型コロナウイルス感染症による影響が2020年9月頃まで続くものと仮定し、繰延税金資産の回収可能性の判断等の見直しを行っていましたが、新型コロナウイルス感染症の影響が収束せず、少なくとも当会計期間末まで影響が続くものと仮定し、繰延税金資産の回収可能性を検討した結果、当中間会計期間末において繰延税金資産の一部を取崩しております。なお、この仮定は不確実性が高く、収束が遅延し、影響が長期化した場合には将来において更に損失が発生する可能性があります。

(中間貸借対照表関係)

※1 消費税等の取扱い

仮払消費税等及び仮受消費税等は相殺のうえ、流動負債の「その他」に含めて表示しております。

(中間損益計算書関係)

※1 営業外収益の主要項目は、次のとおりであります。

	前中間会計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)	当中間会計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)
受取配当金	2,801千円	160千円
雇用調整助成金	—	44,370千円

※2 営業外費用の主要項目は、次のとおりであります。

	前中間会計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)	当中間会計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)
支払利息	13,383千円	12,105千円

※3 特別損失の主要項目は、次のとおりであります。

	前中間会計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)	当中間会計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)
固定資産除却損	8,040千円	1,991千円

※4 中間会計期間における税金費用については、簡便法による税効果会計を適用しているため、法人税等調整額は「法人税等」に含めて表示しております。

5 減価償却実施額は、次のとおりであります。

	前中間会計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)	当中間会計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)
有形固定資産	62,321千円	51,198千円
無形固定資産	36千円	315千円

(有価証券関係)

子会社株式は市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、記載しておりません。

なお、時価を把握することが極めて困難と認められる子会社株式の中間貸借対照表計上額(貸借対照表計上額)は以下のとおりであります。

(単位：千円)

区分	2020年3月31日	2020年9月30日
子会社株式	30,642	30,642

(重要な後発事象)

(多額の資金の借入)

当社は新型コロナウイルス感染症の影響による販売の落ち込みへの対応及び今後の設備投資に対する資金調達の必要性から、以下の借入を実行しております。

(1) 資金使途：設備資金及び運転資金

(2) 借入先：株式会社みずほ銀行、三井住友信託銀行株式会社、株式会社商工組合中央金庫

(3) 借入金額：700百万円

(4) 借入利率：固定金利(但し、株式会社商工組合中央金庫の新型コロナウイルス感染症特別貸付は当初3年間は無利息)

(5) 借入実行日：2020年10月23日及び10月30日

(6) 借入期間：7年

(7) 担保の有無：無担保、無保証

(2) 【その他】

該当事項はありません。

第6 【提出会社の参考情報】

当中間会計期間の開始日から半期報告書提出日までの間に、次の書類を提出しております。

(1) 有価証券報告書及びその添付書類

事業年度 第119期(自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)2020年6月30日関東財務局長に提出。

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の中間監査報告書

2020年12月18日

太平化学製品株式会社
取締役会 御中

東邦監査法人

東京都千代田区

指定社員
業務執行社員 公認会計士 石 井 克 昌 ㊞

指定社員
業務執行社員 公認会計士 渡 辺 慎 志 ㊞

中間監査意見

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている太平化学製品株式会社の2020年4月1日から2021年3月31日までの連結会計年度の中間連結会計期間(2020年4月1日から2020年9月30日まで)に係る中間連結財務諸表、すなわち、中間連結貸借対照表、中間連結損益計算書、中間連結包括利益計算書、中間連結株主資本等変動計算書、中間連結キャッシュ・フロー計算書、中間連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項及びその他の注記について中間監査を行った。

当監査法人は、上記の中間連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる中間連結財務諸表の作成基準に準拠して、太平化学製品株式会社及び連結子会社の2020年9月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する中間連結会計期間(2020年4月1日から2020年9月30日まで)の経営成績及びキャッシュ・フローの状況に関する有用な情報を表示しているものと認める。

中間監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる中間監査の基準に準拠して中間監査を行った。中間監査の基準における当監査法人の責任は、「中間連結財務諸表監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、中間監査の意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

中間連結財務諸表に対する経営者並びに監査役及び監査役会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる中間連結財務諸表の作成基準に準拠して中間連結財務諸表を作成し有用な情報を表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない中間連結財務諸表を作成し有用な情報を表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

中間連結財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき中間連結財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる中間連結財務諸表の作成基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査役及び監査役会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

中間連結財務諸表監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した中間監査に基づいて、全体として中間連結財務諸表の有用な情報の表示に関して投資者の判断を損なうような重要な虚偽表示がないかどうかの合理的な保証を得て、中間監査報告書において独立の立場から中間連結財務諸表に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、中間連結財務諸表の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる中間監査の基準に従って、中間監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

・不正又は誤謬による中間連結財務諸表の重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応する中間監査手続を立案し、実施する。中間監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、中間監査の意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。なお、中間監査手続は、年度監査と比べて監査手続の一部が省略され、監査人の判断により、不正又は誤謬による中間連結財務諸表の重要な虚偽表示リスクの評価に基づい

て、分析的手続等を中心とした監査手続に必要な応じて追加の監査手続が選択及び適用される。

- ・ 中間連結財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な中間監査手続を立案するために、中間連結財務諸表の作成と有用な情報の表示に関連する内部統制を検討する。

- ・ 経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。

- ・ 経営者が継続企業を前提として中間連結財務諸表を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、中間監査報告書において中間連結財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する中間連結財務諸表の注記事項が適切でない場合は、中間連結財務諸表に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、中間監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。

- ・ 中間連結財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる中間連結財務諸表の作成基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた中間連結財務諸表の表示、構成及び内容、並びに中間連結財務諸表が基礎となる取引や会計事象に関して有用な情報を表示しているかどうかを評価する。

- ・ 中間連結財務諸表に対する意見を表明するために、会社及び連結子会社の財務情報に関する十分かつ適切な監査証拠を入手する。監査人は、中間連結財務諸表の中間監査に関する指示、監督及び実施に関して責任がある。監査人は、単独で中間監査意見に対して責任を負う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、計画した中間監査の範囲とその実施時期、中間監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む中間監査上の重要な発見事項、及び中間監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

利害関係

会社及び連結子会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

※1 上記は中間監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(半期報告書提出会社)が別途保管しております。

2 XBRLデータは中間監査の対象には含まれていません。

独立監査人の中間監査報告書

2020年12月18日

太平化学製品株式会社
取締役会 御中

東邦監査法人
東京都千代田区

指定社員
業務執行社員 公認会計士 石 井 克 昌 ㊞

指定社員
業務執行社員 公認会計士 渡 辺 慎 志 ㊞

中間監査意見

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている太平化学製品株式会社の2020年4月1日から2021年3月31日までの第120期事業年度の中間会計期間(2020年4月1日から2020年9月30日まで)に係る中間財務諸表、すなわち、中間貸借対照表、中間損益計算書、中間株主資本等変動計算書、重要な会計方針及びその他の注記について中間監査を行った。

当監査法人は、上記の中間財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に準拠して、太平化学製品株式会社の2020年9月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する中間会計期間(2020年4月1日から2020年9月30日まで)の経営成績に関する有用な情報を表示しているものと認める。

中間監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる中間監査の基準に準拠して中間監査を行った。中間監査の基準における当監査法人の責任は、「中間財務諸表監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、中間監査の意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

中間財務諸表に対する経営者並びに監査役及び監査役会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に準拠して中間財務諸表を作成し有用な情報を表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない中間財務諸表を作成し有用な情報を表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

中間財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき中間財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査役及び監査役会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

中間財務諸表監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した中間監査に基づいて、全体として中間財務諸表の有用な情報の表示に関して投資者の判断を損なうような重要な虚偽表示がないかどうかの合理的な保証を得て、中間監査報告書において独立の立場から中間財務諸表に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、中間財務諸表の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる中間監査の基準に従って、中間監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

・ 不正又は誤謬による中間財務諸表の重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応する中間監査手続を立案し、実施する。中間監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、中間監査の意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。なお、中間監査手続は、年度監査と比べて監査手続の一部が省略され、監査人の判断により、不正又は誤謬による中間連結財務諸表の重要な虚偽表示リスクの評価に基づいて、分析的手続等を中心とした監査手続に必要に応じて追加の監査手続が選択及び適用される。

・ 中間財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な中間監査手続を立案するために、中間財務諸表の作成と有用な情報の表示に関連する内部統制を検討する。

・ 経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。

・ 経営者が継続企業を前提として中間財務諸表を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、中間監査報告書において中間財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する中間財務諸表の注記事項が適切でない場合は、中間財務諸表に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、中間監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。

・ 中間財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた中間財務諸表の表示、構成及び内容、並びに中間財務諸表が基礎となる取引や会計事象に関して有用な情報を表示しているかどうかを評価する。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、計画した中間監査の範囲とその実施時期、中間監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む中間監査上の重要な発見事項、及び中間監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

※1 上記は中間監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(半期報告書提出会社)が別途保管しております。

2 XBRLデータは中間監査の対象には含まれていません。

